

天然記念物クマタカが来た

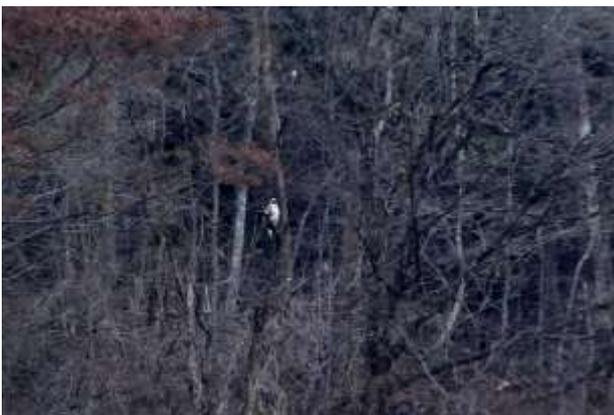
クマタカは絶滅危惧種 I B、国内希少野生動植物種にも指定され、観察されることが極めて少ない野鳥である。県内の生息地は鳥海山や大平山の山深い森林地帯や、奥羽山脈の奥深い山林などである。



尾羽の横縞が確認される。

クマタカが大仙市内に飛来していることは、ほとんど知られていません。雄物川と玉川が合流する地点に、通称「ナダラ」と呼ばれている急峻な崖がある。

11月30日、ナダラに飛来したクマタカの姿を撮影することができた。カメラからの距離は約500メートルでかなり遠い。同じナダラの斜面には、2羽のオジロワシが羽を休めていた。お互いの距離は100メートルほど離れているので気にすることもないようだ。



500メートルはさすがに遠い。



アップで見ると、熊のような顔つきである。

ここ数年間、初冬に入る頃に飛来するクマタカは、若い個体だけであった。しかし、今回見られたのは顔面が黒くて精悍な顔つきの成鳥でした。羽繕いを始めるなどして、直ぐに飛び去る様子はありません。そこで対岸から撮影を試みたら、表情まで分かるような映像が撮れました。



横顔もさすが。



真下を眺めていたが、獲物でもいたのかな。